

2-4 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」導入 (Chromebook)

Chromebook に「i-FILTER@Cloud Agent Advance」を導入する方法について、説明します。

+ 補足

- 本作業を行う前に、Google Workspace 上で「Chromebook」のデバイス登録、ユーザー作成をしておいてください。
- 本手順を実行する場合、「2-8-5 Chromebook にプロキシ PAC を適用」(P.125) は不要となります。

■ Google Workspace 管理コンソール①：アカウントのエクスポート

+ 補足

シングルサインオン連携（「6-2 ユーザーポータルシングルサインオン構成 (Google Workspace)」(P.246)）をしてユーザーを同期している場合、本手順は不要となります。

STEP1 Google Workspace のユーザー情報ダウンロード

【Google Admin】ディレクトリ > ユーザー

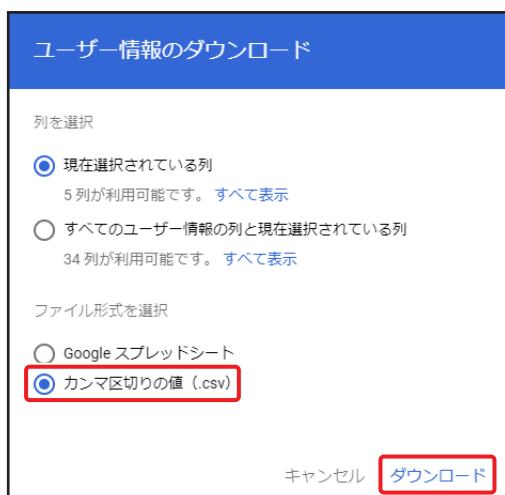
統合管理画面にインポートする Google Workspace のユーザー情報をダウンロードします。

1. 「ユーザーをダウンロードします」をクリックします。



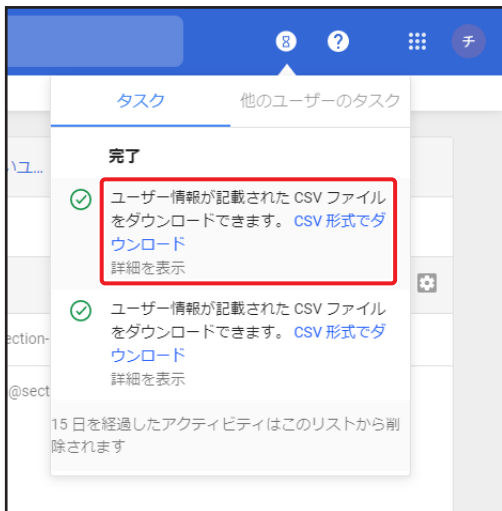
【図：ユーザー一覧画面】

2. 「ファイル形式を選択」から「カンマ区切りの値 (.csv)」を選択して、「ダウンロード」をクリックします。



【図：ユーザー情報のダウンロード画面】

3. 「CSV形式でダウンロード」をクリックします。



【図：CSV形式でダウンロード画面】

■ 統合管理画面①：ユーザー・グループの登録

+ 補足

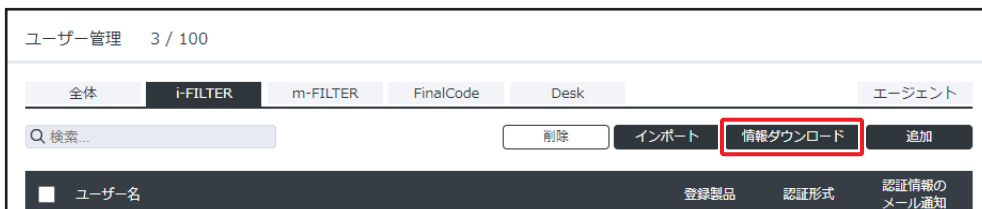
- ユーザー登録・グループ登録は、「i-FILTER@Cloud Agent Advance」のインストール前に行ってください。インストール前にユーザーを登録すると、アクティベーションの実行速度が速くなります。また、アクティベーションした直後にユーザーがグループに分けられるので、ユーザーが << 標準のグループ >> にいる時間がないスムーズな運用が可能です。本手順は、ユーザー登録が完了していることを前提に記載しています。
- 「エージェント」画面の「Chrome エージェントの利用対象を i-FILTER に登録しているユーザーのみにする」にチェックを入れていない場合、ユーザー登録をしていない状態で「i-FILTER@Cloud Agent Advance」をインストールした場合、Chrome ログインアカウント名で自動的にユーザー登録されます。登録されたユーザーは、<< 標準のグループ >> に振り分けられます。チェックを入れた場合、「i-FILTER@Cloud Agent Advance」をインストールしてもユーザーは自動登録されません。
- シングルサインオン連携（「6-2 ユーザーポータルシングルサインオン構成（Google Workspace）」（P.246））をしてユーザーを同期している場合、本手順は不要となります。

STEP1 ユーザーの追加

Chromebook で i-FILTER を使用するユーザーを追加（インポート）します。

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > ユーザー管理 > i-FILTER（タブ）

1. 「情報ダウンロード」ボタンをクリックします。



【図：ユーザー管理画面】

2. 「エクスポート」ボタンをクリックします。



【図：各種情報ダウンロード画面】

- Google Workspace からダウンロードしたファイルを開きます。
- 「Email Address [Required]」列の情報をコピーします。

	A	B	C
1	First Name [Required]	Last Name [Required]	Email Address [Required]
2	User	A	[Redacted]
3	User	B	[Redacted]

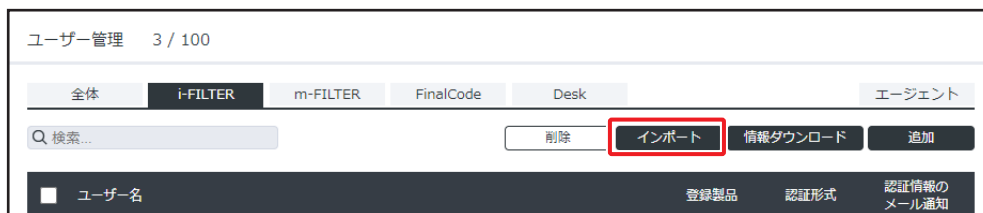
【図：Google Workspace のユーザー情報画面】

- 統合管理画面からダウンロードしたファイルを開き、ファイルを編集します。

+ 補足

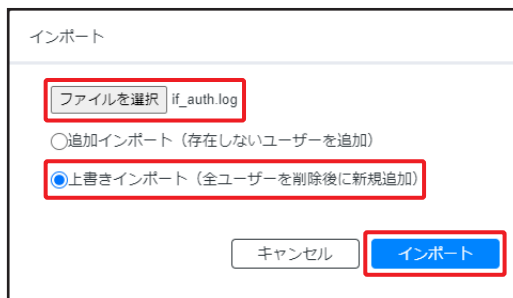
- 編集方法については、「[2-1-5 固定の ID/PW で認証（ユーザーポータル閲覧）](#)（P.25）を参照してください。
- 認証形式は、「3」（固定 ID/PW）としてください。

- 「インポート」ボタンをクリックします。



【図：ユーザー管理画面】

- インポートするファイルを設定し、上書きインポート（全ユーザーを削除後に新規追加）を選択して、「インポート」ボタンをクリックします。



【図：インポート画面】

- ユーザーが追加されたことを確認します。

STEP2 ユーザーのグループ分け

統合管理画面で追加したユーザーをグループ分けします。

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > グループ管理

ユーザーをグループ分けします。

+ 補足

グループの登録手順については、「[3-1 フィルターグループを作成](#)」（P.133）を参照してください。

■ 統合管理画面②：Chrome エージェントの設定・確認

STEP1 Google Workspace 利用ドメインリストの追加

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > エージェント

Google Workspace 利用ドメインリストへ Google Workspace のドメインを追加します。

+ 補足

本手順を設定していない状態で、「拡張機能のポリシー」の配布失敗やポリシーの読み込みエラーが発生した場合、アクティベーションが実行されず、予期せぬ状態（インターネット接続不可またはフィルタリング無効状態でインターネットアクセス可）が発生することがあります。そのため、本手順を必ず行ってください。

既に別の「i-FILTER」の「Google Workspace 利用ドメインリスト」に登録されているドメインを登録することはできないため、「i-FILTER」を複数されている場合は、どちらかの「i-FILTER」にのみ設定してください。

1. 「Google Workspace 利用ドメインリスト」の「追加」ボタンをクリックします。



【図：Google Workspace 利用ドメインリスト画面】

2. ドメインを入力し、「追加」ボタンをクリックします。

【図：ドメインの追加画面】

STEP2 「拡張機能のポリシー」の確認

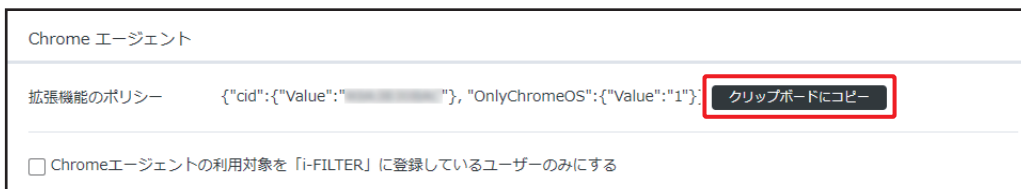
【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > エージェント

「拡張機能のポリシー」の情報を確認します。

+ 補足

複数の「i-FILTER」を同一の Google Workspace ドメインに連携させる場合は本手順が必須となります。

1. 「クリップボードにコピー」ボタンをクリックします。



【図：Chrome エージェント画面】

STEP3 Chrome エージェントの設定

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > エージェント

必要に応じて、以下を設定します。

設定	内容
Chrome エージェントの利用対象を「i-FILTER」に登録しているユーザーのみにする	「i-FILTER」に登録済みのユーザーのみ「i-FILTER@Cloud Agent Advance」(Chrome) を利用できるようにしたい場合にチェックを付けてください。チェックを付けた状態で「i-FILTER」に登録されていないユーザーを「i-FILTER@Cloud Agent Advance」でユーザー登録しようとすると、ユーザー登録に失敗し、Web サイトにアクセスすると、エラーメッセージが表示されます。
「i-FILTER」への通信失敗時に Web サイトの閲覧を許可する	「i-FILTER」への通信失敗時、「i-FILTER」でのフィルタリングなしに Web サイトへのアクセスを許可する場合は、チェックを付けてください。
「通信エラー」と判定された場合、「i-FILTER」への通信を一定時間無効にする	設定した通信エラー判定時、「i-FILTER」でのフィルタリングなしに Web サイトへのアクセスを許可する場合は、チェックを付けてください。
除外ドメインリスト	フィルタリング対象から除外したいドメインがある場合は、「除外ドメインリストに含まれる場合、「i-FILTER」への通信は行わない」にチェックを付けて、対象のドメインを入力してください。
除外 IP アドレスリスト	フィルタリング対象から除外したい IP アドレスがある場合は、「除外 IP アドレスリストに含まれる場合、「i-FILTER」への通信は行わない」にチェックを付けて、対象の IP アドレスを入力してください。

+ 補足

設定の詳細については、『「DigitalArts@Cloud」マニュアル』を参照してください。

■ 統合管理画面③：証明書のダウンロード

統合管理画面から SSL 証明書をダウンロードします。

+ 補足

詳細については、「2-5-6 Google Workspace で配布」(P.109) のSTEP1 を参照してください。

■ Google Workspace 管理コンソール②：拡張機能のインストール設定

STEP1 拡張機能（i-FILTER@Cloud Agent Advance）の追加

【Google Admin】 デバイス > Chrome > アプリと拡張機能 > ユーザーとブラウザ

1. 拡張機能（i-FILTER@Cloud Agent Advance）を追加する組織を選択します。



【図：組織の選択画面】

2. 画面右下の **+** にマウスをかざして、**+** をクリックします。



【図：拡張機能の追加画面】

3. 以下の ID を入力して、「保存」ボタンをクリックします。

ID	ejafbjpobknkfhkhgiooclabbmcjla
----	--------------------------------

Chrome アプリや拡張機能を ID で追加

ID を指定して Chrome アプリや拡張機能を追加することもできます。Chrome ウェブストア以外にある場合、拡張機能がホストされている URL も指定する必要があります。

拡張機能 ID

Chrome ウェブストアから追加 ▼

キャンセル

【図：拡張機能 ID で追加画面】

「i-FILTER@Cloud Agent Advance」が一覧に追加されます。

4. 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」を選択して、「インストールポリシー」から「自動インストールしてブラウザのツールバーに固定する」または「自動インストールする」を選択し、「拡張機能のポリシー」に「**■ 統合管理画面②：Chrome エージェントの設定・確認**」の STEP2 でコピーした値を設定します。

+ 補足
 複数の「i-FILTER」を同一の Google Workspace ドメインに連携させる場合は本手順が必須となります。
 また、Windows 端末で Chrome エージェントによるフィルタリングを無効化したい場合も本手順を行ってください。

【図：インストール設定画面】

5. 「保存」ボタンをクリックします。

← 2 個の設定を変更しました 元に戻す

デバイス > Chrome > アプリと拡張機能

【図：拡張機能の設定保存画面】

+ 補足

- 下記の手順（手順 6～8）は省略することもできます。ただし、他に拡張機能をインストールできることとなりますので、他にインストールした拡張機能が「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の通信を阻害する可能性があります。他に拡張機能をインストールした場合は、動作テストをして「i-FILTER@Cloud Agent Advance」が正しく動作するか確認してください。動作テストについては、「STEP3 動作テスト」(P.87) を参照してください。
- Play ストアから入手したアプリはフィルタリング対象外となります。

6. 「追加の設定」をクリックします。



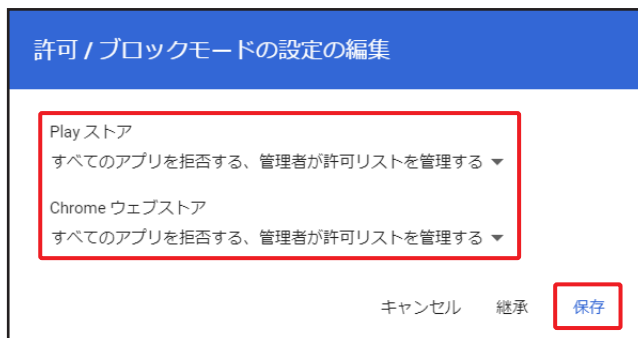
【図：追加の設定画面】

7. 「許可/ブロックモード」の「編集」ボタンをクリックします。



【図：許可/ブロックモード画面】

8. 「Playストア」および「Chrome ウェブストア」から「すべてのアプリを拒否する、管理者が許可リストを管理する」を選択し、「保存」ボタンをクリックします。



【図：許可/ブロックモードの設定の編集画面】

■ Google Workspace 管理コンソール③：Chrome の設定変更

STEP1 Chrome の設定変更

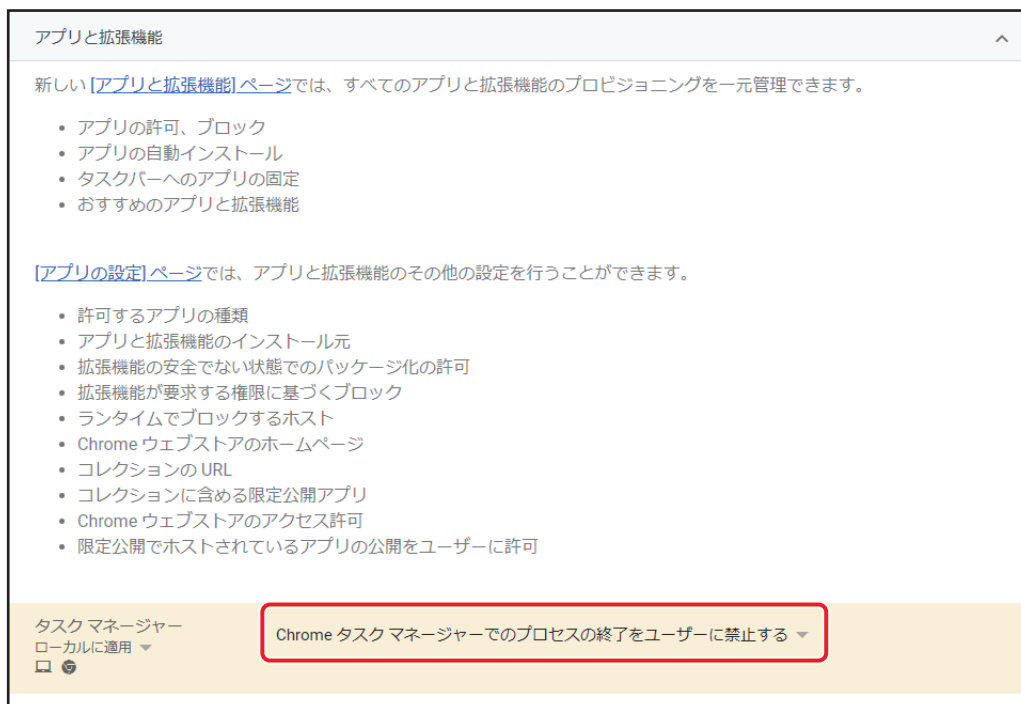
【Google Admin】 デバイス > Chrome > 設定 > ユーザーとブラウザ

1. Chrome の設定を変更する組織を選択します。



【図：組織の選択画面】

2. 「アプリと拡張機能」の「タスクマネージャー」を「Chrome タスクマネージャーでのプロセスの終了をユーザーに禁止する」に設定します。



【図：アプリと拡張機能画面】

3. 「セキュリティ」の「シークレットモード」を「シークレットモードを無効にする」に設定します。



【図：セキュリティ画面】

4. 「起動」の「起動時に読み込むページ」に起動時に表示する任意の URL を入力します。

+ 補足

起動時に空白のページを表示したい場合は、「about:blank」と入力します。

5. 「保存」ボタンをクリックします。

【図：Chrome の設定保存画面】

+ 補足

上記の設定のほかに、必要に応じて一般ユーザー向けアカウントでのログインや、ゲストユーザーでのブラウジングを防ぐ設定にしてください。詳細については、Google Workspace 管理者ヘルプを参照してください。

■ Google Workspace 管理コンソール④：証明書ファイルの配布設定

Google Workspace 管理コンソールで、証明書ファイルを配布する設定を行います。

+ 補足

詳細については、「2-5-6 Google Workspace で配布」(P.109) のSTEP2～STEP3を参照してください。

■ Chromebook での動作テスト

「i-FILTER@Cloud Agent Advance」がインストールされ、正しく動作することを確認します。

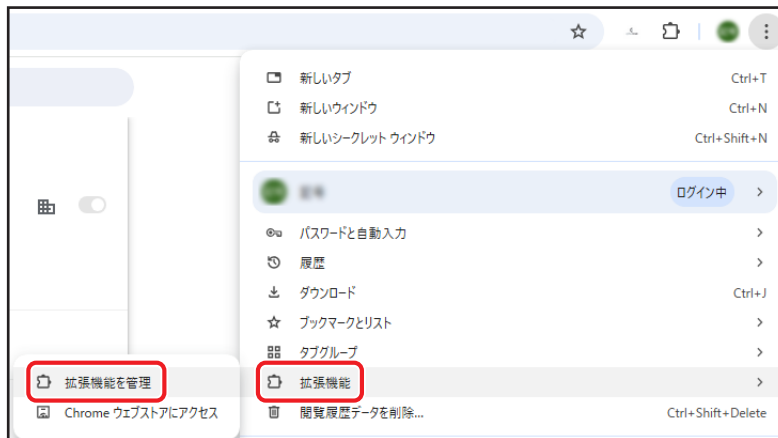
STEP1 Chrome の起動

Chrome を起動します。

「i-FILTER@Cloud Agent Advance」がインストールされます。

STEP2 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の設定

1. 「Chrome」の  をクリックし、「拡張機能」>「拡張機能を管理」をクリックします。



2. 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の「詳細」ボタンをクリックします。



3. 「拡張機能のオプション」をクリックします。



4. 以下の設定になっていることを確認します。

Account	Chromebook にログインしているユーザー名
Status	有効



【図：「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の設定画面】

注意

- 「Status」に「無効（企業 ID への紐づけが行えません）」と表示された場合、以下のことを確認してください。
 - 「拡張機能のポリシー」が正しく設定されているか
 - ※ 詳細な設定手順については、「[統合管理画面②：Chrome エージェントの設定・確認](#)（P.77）」「[Google Workspace 管理コンソール②：拡張機能のインストール設定](#)」（P.79）を参照してください。
 - Chrome の同期が有効になっているか
- 「URL」、「企業 ID」、「Account」が空白の場合、Chrome の同期が無効になっている可能性があります。Chrome の同期を有効にしてから、「再アクティベーション」ボタンをクリックしてください。

STEP3 動作テスト

1. 「ブロックテスト」ボタン、「許可テスト」ボタンをクリックして、それぞれ以下のような画面が表示されるか確認します。



【図：ブロック画面】

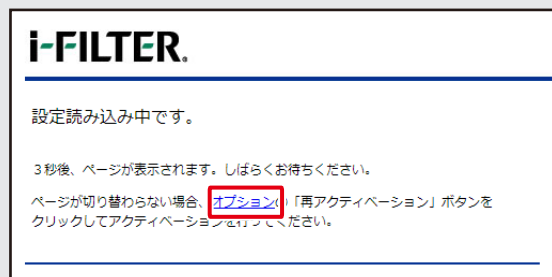


【図：許可画面（弊社ホームページ）】

2. URL フィルタリングが動作していることを確認します。

+ 補足

設定終了後、Chrome を起動して Web ページを開こうとすると、以下の画面が表示されることがあります。



上記の画面が表示され続けて開こうとした Web ページが表示されない場合は、同ページの「オプション」をクリックして、「i-FILTER@Cloud Agent Advance」を再アクティベーションしてください。

■ 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」 ユーザーの Chrome ログインアカウント名を変更した場合

Chrome ログインアカウント名を変更しても、「i-FILTER@Cloud Agent Advance」で再アクティベーションしない限り、「i-FILTER」のユーザー名は変更されません。

Chrome ログインアカウント名に合わせて、「i-FILTER」のユーザー名を変更したい場合は、以下のことを実行してください。

⚠ 注意

「i-FILTER」のユーザーを追加することになりますので、「i-FILTER」のアカウント数の上限にご注意してください。
Google Workspace のアカウント名を変更するのではなく、表示名の変更で問題ない場合は、表示名の変更を推奨します。

STEP1 ユーザーの追加

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > ユーザー管理 > i-FILTER (タブ)

ユーザーを追加します。

+ 補足

追加方法については、「[■ 統合管理画面①：ユーザー・グループの登録](#) (P.75) のSTEP1を参照してください。

STEP2 ユーザーのグループ分け

統合管理画面で追加したユーザーをグループ分けします。

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > グループ管理

ユーザーをグループ分けします。

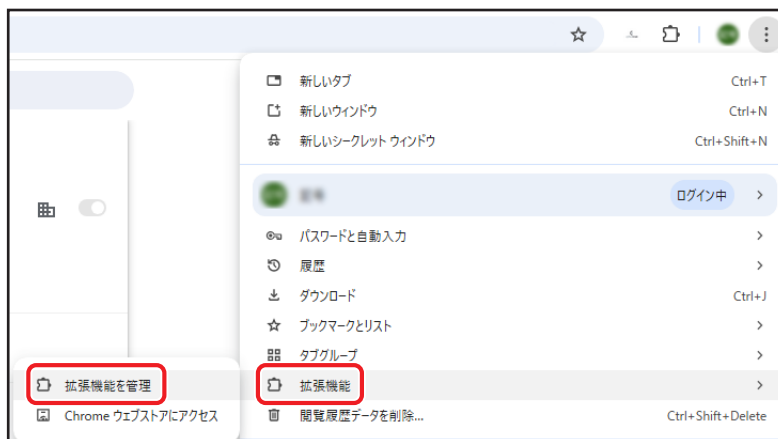
+ 補足

グループの登録手順については、「[3-1 フィルターグループを作成](#)」(P.133)を参照してください。

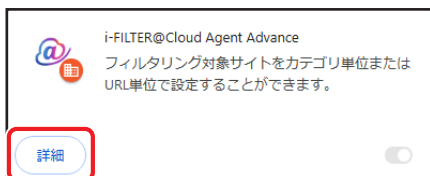
STEP3 再アクティベーション

各 Chromebook で再アクティベーションを実行します。

1. 「Chrome」の  をクリックし、「拡張機能」 > 「拡張機能を管理」をクリックします。



2. 「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の「詳細」ボタンをクリックします。



3. 「拡張機能のオプション」をクリックします。



4. 「再アクティベーション」ボタンをクリックします。



STEP4 動作テスト

「i-FILTER@Cloud Agent Advance」の動作テストを行います。

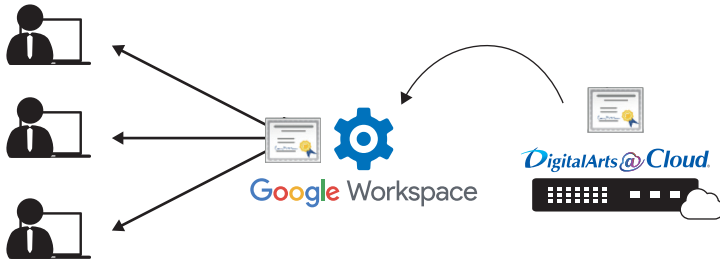
+ 補足

詳細な手順については、「[Chromebook での動作テスト](#)」(P.85)の「STEP3」を参照してください。

2-5-6 Google Workspace で配布

運用シナリオ

- Google Workspace の管理対象デバイスに証明書ファイルを配布



■ 設定手順

STEP1 証明書ファイルの取得

【統合管理画面】基本設定 > 共通設定 > アカウント情報

「SSL 証明書」の「ダウンロード」ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'アカウント情報' (Account Information) page. It includes sections for '管理ユーザー名' (Management User Name), '二段階認証' (Two-step authentication), and 'メールアドレス設定' (Email address settings). The 'サービス関連ファイルのダウンロード' (Download service-related files) section contains a table of files for download:

サービス関連ファイルのダウンロード	ダウンロード	バージョン
エージェントインストーラー	ダウンロード	Ver.1.12R03.0006
エージェント設定更新用バッチファイル	ダウンロード	
SSL証明書	ダウンロード	
Desk アプリ	ダウンロード	Ver.1.2R22.0

【図：アカウント情報画面】

STEP2 設定画面へ遷移

【Google Admin】デバイス > ネットワーク

1. 証明書を追加する組織を選択します。



【図：組織の選択画面】

2. 「証明書を作成」をクリックします。



【図：ネットワーク】

STEP3 証明書をインポート

1. 「アップロード」ボタンをクリックして、「STEP1」でダウンロードした証明書をアップロードします。



【図：証明書のアップロード】

2. 「認証局」から「Chromebook」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

証明書
[redacted] で適用しました

名前

ファイルが添付されています
sharedpx_ca_sha2.crt ×

発行先: Digital Arts Inc. CA, Digital Arts Inc., Digital Arts Inc.
発行元: Digital Arts Inc. CA, Digital Arts Inc., Digital Arts Inc.
発行日: 2019年10月25日
有効期限: 2047年3月12日

認証局

以下に対する認証局として使用

⚠ SSL 検査証明書が適用されているユーザーに対して、マルチログインが無効になります。

ℹ 注: HTTPS の安全性を保つため、この証明書に含まれる秘密鍵の部分は安全に保管する必要があります。

Android

Chromebook

iOS

Chromebook 上の Imprivata アプリ

ℹ Android と iOS の設定を適用するには、モバイルの高度な管理を有効にするの詳細管理を有効にする必要があります。

追加

【図：認証局の設定】